

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104217
法人名	(有)オリエンタルシルバーホーム
事業所名	トータルケアサポート花みずき
所在地	愛媛県松山市泉町23-6
自己評価作成日	平成23年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り在宅の生活に近い暮らしを考えており、一緒に暮らす仲間に迷惑がかからない限り規則にとられない自由な暮らしを提供したいと思えます。その為にも、過剰な医療は避け自分で出来る事は自分でする様にお話させて頂いています。
利用者様と職員はどちらが上でも下でもなく、共に同じ立場・目線でお付き合い出来るようにしたいと思っていますが、目上の方々への礼節は公私ともに守る様職員指導を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは6階建ての建物の2階と3階にあり、市中心部の繁華街に歩いて行ける距離にある。玄関や居間は家庭的な雰囲気作りがされており、壁には季節の物や手作りのカレンダーが飾られている。管理者や職員は理念に沿って、利用者の日々の暮らしを支えている。地域の行事に参加したり、地域の人にホームの行事へ参加してもらったり、地域との交流も盛んに行われている。ホーム内で習字や絵がみ、音楽療法、ボランティアに来てもらう等利用者が楽しめるよう支援がされている。協力医療機関は24時間対応しており、医療面でも安心できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 トータルケアサポート 花みずき

(ユニット名) グループホーム 花みずき(2階)

記入者(管理者)

氏名 志摩しずか

評価完了日 平成 23 年 2 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ①各ユニットに理念を掲示し支援の方向性を間違わないよう、ユニット会議等で確認しあっている。又理念がケアプランに活かされるように話合っている。</p> <p>(外部評価) 理念は開設当時から変わっていないが、管理者や職員は全体会等で話し合いを行い共有している。利用者が家庭と同じような雰囲気の中で自由に過ごす事ができるよう日々支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ①地域との交流は推進会議や地方祭への参加や、ホームの夏祭りへの招待等でふれあいが出来るようにしている。 ②地域の小中学校の体験学習の受け入れをしており、近隣の保育園との交流も行っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入り、地域の行事に参加している。近くの幼稚園との交流や、小学生の体験学習も受け入れている。またボランティアに絵がみや習字を教えに来てもらっている。事業所の屋上で行う夏祭りには、近所の方も参加、協力してもらっている。利用者とは雑巾を作り、近くの福祉施設に寄贈予定である。</p>	管理者は地域住民向けの介護相談窓口を設けたいと考えており、事業所が持っている介護の専門性を活かして地域住民から頼られる相談窓口となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々、通りがかった方々、電話での相談等で在宅・施設を問わず相談窓口となり必要な情報提供や、各事業所への紹介や連携、アドバイスを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ①地域や行政の方々と家族様・職員が一つの場を持つることにより、意見の交換が出来職員へ伝え、改善点を見出して実践している。	
			(外部評価) 2か月に1回開催し行事報告や、意見交換を行っている。町内会長以外の地域の方の参加は得られていないが、町内会長が協力的で地域の情報も提供してくれている。特に防災について地域の消防団と話し合われており、協力体制ができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ①疑問・問題点は随時報告を行い、家族様からの苦情などについても市町村の意見も聞く様にしている。 ②推進会議等を通し日ごろのケアや取り組みについても報告・説明を行い情報提供や疑問点の解決をしている。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センター、市社会福祉協議会の職員に運営推進会議に出席してもらい、ホームの情報提供やわからない事を相談する等、日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①身体拘束に関しては全ての職員が理解出来ており、危険性を回避出来ない場合を除いて出来る限りの身体拘束排除を実践している。 ②玄関の施錠は時間外を除いて、していないが各階エレベーターボタンの施錠は時間帯や入居者の状況に応じて使用する場合はある。	
			(外部評価) マニュアルを基に勉強会を行い職員全員で理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員の見守りで対応しているためエレベーターを自由に利用することができ、玄関の施錠もされていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ①リーダーミーティングや全体ミーティングを定期的に行い、職員の不安や悩みを出し合い、まず職員の精神的なケアに取り組むことで、より良い介護や支援を目指している。 ②虐待の種類や内容についてはミーティングでの指導やマニュアルをファイルしてある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市町村の介護保険課・生活福祉課・社会福祉協議会・包括支援センター等の情報や指導を受け個々に対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に管理者より説明を行い、必要な場合は持ち帰り再度熟読していただき、質問や意見をお聞きし納得された上で契約書を交わす事になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ①運営推進会議・家族会で意見を出せる場がある ②個々の利用者に担当職員を決め意見や質問などが受けられ易くしている。必要な報告はリーダー・管理者に随時行う様にしている。 (外部評価) 利用者や家族に直接聞いたり、家族の訪問時や運営推進会議等で意見を聞いている。イベントに合わせて家族会を実施しており、意見を出せる機会を設けている。出された意見は職員間で話し合っ対応している。エレベーターの横に意見箱を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全体会議やフロアーミーティングを定期的に行い意見を聞けるようにしている。</p> <p>(外部評価) 全体会で職員の意見を聞き必要に応じて話し合っている。管理者は職員の意見を聞くことが大切だと考え一人ひとりの話をよく聞き、職員の思いを把握している。職員も定着しており、職員からリーダーに話す事により主任、管理者に伝わる仕組みもできている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) ①一年に1回は勤務評定も行き、努力実績の評価を行い適当と思われる者は給与の見直しも行っている。 ②年に2～3回の親睦会で管理職を含め職員間のコミュニケーションを図っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 現在は管理者やキャリアのある職員がミーティングの中での勉強会による指導を行っているが、今年度は外部研修や講師を招いての研修会を予定している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) ①認知症の実践者研修などを通じ、他施設の職員との交流も図れるようにした。 ②管理者他施設などを訪問し情報交換を行いサービスの向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握し改善出来るようなプランを作成し、経過観察をしながら見直しを行っていく。 ②担当者を決め、職員サイドから話かけを行い、不安や孤立感をなくする様にしている。 ③レクレーションや行事への参加も本人様の意思を尊重する</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ①入居に至る経過を十分にお聞きし必要性を理解する ②契約以前の段階で費用や生活の内容ケアの内容等の説明を行い、納得されるまで話し合いを行う ③医療との連携の状態を説明し家族様自身に主治医や方向性を決めていただく	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握出来るようにしている ②事前調査には管理者が介護支援専門員・看護師・介護リーダーを状態に合わせて参加させ、多様なサービスが説明できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ①職員全体であっても、担当者であっても花みずきの生活は介護の場でなく、生活の場であるという理念の指導を行っており、生活するために出来ない部分をお手伝いする、楽しむ時は一緒に楽しむ姿勢である様に心がけている。 ②利用者様と職員は人権も同じライン上に居り、一方通行の支援にならないように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ①利用者の生活や将来について必ず家族参加で話合えるようにしており、ホームのアドバイスや情報を提供し、家族様に最終判断をしていただくようにしている。 ②日常の状態の報告を看護師・担当者が中心に定期的に行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ①訪問面会は、本人・家族の拒否が無い限り自由に出るようになっている。(他の入居者に迷惑行為があると思われる方はご遠慮願っている) ②感染症の時期は面会の制限をさせて頂くこともある。 (外部評価) 個別に家族と一緒に出かけたり、行きつけの美容室などに行っている。ホームに入居してから行っている美容室が馴染みとなっている利用者もいる。ホームの行事やイベントには家族にも案内を行い参加を得て、一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ①自由な空間を理念としているので、無理強いしないで自然な形でお茶やレクレーションに参加して頂き、職員が介在することにより利用者同士の交流が出来るようにしている。 ※時間をかけてお友達同士で行き来できるようになっています。 ③合同で楽しめる行事設定を定期的に作成している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、地域の相談窓口として入居中と変わらずご相談に乗れるようにお話をしています	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ①個別サービスが実施できるように担当者を決めている ②24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし、ケアプラン作成や日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) 利用者の思いや家族の希望を日々の生活の中で聞き取るなど把握に努めている。また、職員の把握した情報は連絡ノートに記載し、全体会やフロア会等で話し合いを行い、職員全員で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ①家族や知人の訪問時にお聞きする事がある ②利用者様との係わりや会話の中で把握できるようにし、サービスの見直し等に取り入れ、今何がしたいかがあれば可能な限り実現できるようにする ③24時間シートを活用し把握するようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ①医療とも連携し、看護師・職員が毎日の健康チェックを行い、異常があるときは全員に申し送り緊急連絡がスムーズに行えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>①家族には日常的に意見を聞き・本人の満足度なども24時間シートや毎月のモニタリング表で評価しケアプランに反映している。 ②日常のミニカンファレンスや状態の報告等を聞き必要なときはプランの見直しを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の担当者を中心に職員全員が利用者一人ひとりの状況を把握できており、全職員の意見を採り入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い状態の変化に応じて対応している。モニタリング表は分かりやすい書式になっている。介護計画は定期的に見直し、利用者に合ったケアが行われている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>①24時間の個別記録・業務日誌による個別記録と毎日のケアプラン実施度を自己評価し実践に活かしている</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>①一日の流れの業務マニュアルはあるが、体調・天候・季節等を随時勘案し・優先すべき事柄を臨機応変に行い、行事の導入や、食事や外食の対応をしている ②入浴や日常生活の中で個々に必要な福祉用具等も家族と話し合いながら安楽な生活が出来る様に心がけている</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>①習字・音楽・地域学童などボランティアの誘致をしている ②外出時の同行など家族にも協力を得て社会参加を促している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>①基本的には本人・家族の希望する医療機関を主治医 としている</p> <p>②受診時に家族対応が困難な場合は往診を中心とした 連携病院の紹介を行い、その中で決めてもらっている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者はそれぞれ希望するかかりつけ医を受診してい るが、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ 医としており、定期的に協力医療機関から往診をして もらっている。職員は利用者の健康状態の把握ができ ており、家族も医療面において安心が得られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>①看護師は非常勤2名を配置し、日常生活の健康管理 を行い家族と向き合い相談を受けながら、医療機関へ の連携を行っている</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>①日常より医療機関と連携をとり入院中の状況や退院 後の対処など情報交換が出来るようにし、早期退院が 出来るように努めている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>①入居時に終末期の方針をお聞きしているが、状態変 化がある度に医療・家族・花みずきで話し合いを持ち 方向性の確認を取っている</p> <p>②重度化した時、終末期を医療機関でなくホームでと 希望された場合は24時間体制の医療機関に協力を得 て看取りを行うようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの指針を定めており、入居時に利用者や家族に 説明を行い同意を得ている。看取りの経験もあり、利 用者の状態の変化に合わせてかかりつけ医、看護師、 家族、管理者、職員等関係者と話し合いを行い、方針 を決めている。また、看取りに関して外部の研修に参 加したり、ホーム内でも勉強会を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ①緊急連絡体制は整えてあり、看護師や医療機関へ連携できるようにしている ②応急処置などについては医療機関にも協力を得てマニュアル化しているが、医療従事者ではない者は許容の範囲で実施する事になっている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ①地域には協力を要請している ②非難の場所は各階に掲示している ③防災訓練は定期的に行い、消防関係者の協力も得ている (外部評価) 月に1回日勤者のみで利用者も一緒に避難訓練をしており、避難経路も把握できている。消防署に直接連絡できるシステムになっており、指導も受けている。また、運営推進会議で地域の消防団にホーム内を見てもらい、協力が得られる体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの全大会において接遇についての勉強会を行ったり、月間目標として掲げ、目上の方へ声かけや姿勢について話合っている。 (外部評価) 職員の利用者に対する言葉使いや態度、職員同士の会話についてもミーティング時に話し合っている。利用者のトイレや歯磨き等の誘導は自然であり、職員と信頼関係ができていく様子が見えてきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ①食事や排泄、入浴、行事参加など利用者に関わりながら実施している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ①週に一度は日常のマニュアルを外し職員が自由に動ける日を設定している ②突発的な状況にも対応し、決まりごとに縛られない支援を心がけている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ①離床するときは更衣・身だしなみの気配りや整容を行ってもらう ②外出時は可能な人は、利用者様に服装など選んでもらいおしゃれを楽しんでもらうようにしている ③自分で選んだ更衣が出来ている人には「お似合いですよ」等の言葉かけを行い楽しむ意欲を持ってもらう	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ①花みずきは厨房で原型が出来ているため、盛り付けや配膳・片付け等手伝っていただく ②週に一度調理の日やおやつ作りの日は、献立の希望なども取り入れ、利用者参加で調理を楽しむ	
			(外部評価) 調理は併設の有料老人ホームの厨房で行なっている。週1回はホーム内で利用者と献立を考えて一緒に作ったり、おやつ作りを行うこともある。職員も利用者と会話を楽しみながら一緒に食事をしており、利用者同志もお喋りしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ①食事の形態は個々に合わせている ②食事・水分の摂取量は毎日チェックを行い本人に合わせた状態観察を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ①食後の口腔ケアは自立・介助ともに全員行う事が出来ている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ①個々に合わせて支援を行っている	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は睡眠剤を服用している利用者もあり、一人ひとりの状態に応じて睡眠を優先したり、訪室時やコールがある時等に対応する等、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ①排泄のチェックは毎日行い、早期に改善が出来るように食生活等で予防している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ①体調不良の時以外は随時入浴をしてもらっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は現状では困難であり出来ていない	
			(外部評価) 体調に配慮しながら、週2回は入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には目を変えたり、声かけを工夫しながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、ホーム内での入浴が困難な利用者に対しては、併設の有料老人ホームにある機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ①個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ①薬の管理は看護師が行い、全職員に指導しているが専門職でない職員が中途半端な判断をする事を禁じており、必ず主治医いや看護師への報告を行うようにしている。 ②担当者は自分の受け持つ利用者の既往症や薬の種類は把握するように指導している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ①個別サービスの実施を推進している ②24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし日々の楽しみに活かせるように取り組んでいる	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ①外出行事は月一度の予定で実施している ②平成22年は・・初詣・お花見・買い物と外食(ファミレス)・散髪と外食(回転寿司)・夏祭り・地方祭・さつき展・紅葉のドライブ・等が主な外出行事でした ③その他個別外出は個別サービスの一環として随時実施 (外部評価) 季節に合わせて外出の計画を立て、初詣や椿さんに出かけている。家族と一緒に外食等をする利用者もいる。天気の良い日は景色のいい屋上で外気に触れる機会を作っている。利用者の希望に応じて散歩や買い物も支援している。	管理者は外出の大切さを認識しており、全員で楽しめる外出や利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を計画しており、今後も利用者の希望や状態を考慮しながら取り組むことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ①買い物外出の日にそれぞれおこずかいを持って行き買い物や外食を個々に選んで楽しむ	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て可能な利用者は電話を取り次いだり、かけたり出来ている ②職員の支援も含め、年賀状を全員に書いてもらって出すことが出来た ③お便りのある人は写真や手紙を返信できる支援を実施	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①春夏秋冬の切り替えや行事などに合わせ壁飾りなどに工夫をし季節感を取り入れている ②共通空間は清潔感が保持できるようにしている ③照明についても、リビングの照明を増設し明るい中で食事やレクレーションを楽しんでもらう工夫をした</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は明るく、家庭的な雰囲気が漂っており、利用者も自由に過ごされている。壁には季節が感じられる手作りの物や利用者の習字等が飾られている。利用者が好きな場所で寛いだり、自由な時間を過ごすことができるよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①季節により屋上で過ごす事が出来る ②リビングでお茶やおやつ・カラオケなどを楽しむ事が出来る ③一人でリビングでテレビを見たり仲間が集まってお茶の時間を楽しんだり出来る。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している ②個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドが備え付けられており、利用者の使い慣れた馴染みの家具や洋服掛け、テレビ、写真、愛用していた物等を持ち込んでいる。壁の飾りは本人に合わせて工夫して飾られており、その人らしい落ち着ける雰囲気作りがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>①車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 ②居室内は畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104217
法人名	(有)オリエンタルシルバーホーム
事業所名	トータルケアサポート花みずき
所在地	愛媛県松山市泉町23-6
自己評価作成日	平成23年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り在宅の生活に近い暮らしを考えており、一緒に暮らす仲間に迷惑がかからない限り規則にとられない自由な暮らしを提供したいと思っております。その為にも、過剰な医療は避け自分で出来る事は自分でする様にお話させて頂いています。
利用者様と職員はどちらが上でも下でもなく、共に同じ立場・目線でお付き合い出来るようにしたいと思っておりますが、目上の方々への礼節は公私ともに守る様職員指導を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは6階建ての建物の2階と3階にあり、市中心部の繁華街に歩いて行ける距離にある。玄関や居間は家庭的な雰囲気作りがされており、壁には季節の物や手作りのカレンダーが飾られている。管理者や職員は理念に沿って、利用者の日々の暮らしを支えている。地域の行事に参加したり、地域の人にホームの行事へ参加してもらったり、地域との交流も盛んに行われている。ホーム内で習字や絵がみ、音楽療法、ボランティアに来てもらう等利用者が楽しめるよう支援がされている。協力医療機関は24時間対応しており、医療面でも安心できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 トータルケアサポート 花みずき

(ユニット名) グループホーム 花みずき(3階)

記入者(管理者)

氏名 志摩しずか

評価完了日 平成 23 年 2 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>①各ユニットに理念を掲示し支援の方向性を間違わないよう、ユニット会議等で確認しあっている。又理念がケアプランに活かされるように話合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>理念は開設当時から変わっていないが、管理者や職員は全体会等で話し合いを行い共有している。利用者が家庭と同じような雰囲気の中で自由に過ごす事ができるよう日々支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>①地域との交流は推進会議や地方祭への参加や、ホームの夏祭りへの招待等でふれあいが出来るようにしている。 ②地域の小中学校の体験学習の受け入れをしており、近隣の保育園との交流も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自治会に入り、地域の行事に参加している。近くの幼稚園との交流や、小学生の体験学習も受け入れている。またボランティアに絵がみや習字を教えに来てもらっている。事業所の屋上で行う夏祭りには、近所の方も参加、協力してもらっている。利用者や雑巾を作り、近くの福祉施設に寄贈予定である。</p>	管理者は地域住民向けの介護相談窓口を設けたいと考えており、事業所が持っている介護の専門性を活かして地域住民から頼られる相談窓口となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々、通りがかった方々、電話での相談等で在宅・施設を問わず相談窓口となり必要な情報提供や、各事業所への紹介や連携、アドバイスを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ①地域や行政の方々と家族様・職員が一つの場を持つことにより、意見の交換が出来職員へ伝え、改善点を見出して実践している。	
			(外部評価) 2か月に1回開催し行事報告や、意見交換を行っている。町内会長以外の地域の方の参加は得られていないが、町内会長が協力的で地域の情報も提供してくれている。特に防災について地域の消防団と話し合われており、協力体制ができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ①疑問・問題点は随時報告を行い、家族様からの苦情などについても市町村の意見も聞く様にしている。 ②推進会議等を通し日ごろのケアや取り組みについても報告・説明を行い情報提供や疑問点の解決をしている。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センター、市社会福祉協議会の職員に運営推進会議に出席してもらい、ホームの情報提供やわからない事を相談する等、日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①身体拘束に関しては全ての職員が理解出来ており、危険性を回避出来ない場合を除いて出来る限りの身体拘束排除を実践している。 ②玄関の施錠は時間外を除いて、していないが各階エレベーターボタンの施錠は時間帯や入居者の状況に応じて使用する場合はある。	
			(外部評価) マニュアルを基に勉強会を行い職員全員で理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員の見守りで対応しているためエレベーターを自由に利用することができ、玄関の施錠もされていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ①リーダーミーティングや全体ミーティングを定期的に行い、職員の不安や悩みを出し合い、まず職員の精神的なケアに取り組むことで、より良い介護や支援を目指している。 ②虐待の種類や内容についてはミーティングでの指導やマニュアルをファイルしてある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市町村の介護保険課・生活福祉課・社会福祉協議会・包括支援センター等の情報や指導を受け個々に対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に管理者より説明を行い、必要な場合は持ち帰り再度熟読していただき、質問や意見をお聞きし納得された上で契約書を交わす事になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ①運営推進会議・家族会で意見を出せる場がある ②個々の利用者に担当職員を決め意見や質問などが受けられ易くしている。必要な報告はリーダー・管理者に随時行う様にしている。 (外部評価) 利用者や家族に直接聞いたり、家族の訪問時や運営推進会議等で意見を聞いている。イベントに合わせて家族会を実施しており、意見を出せる機会を設けている。出された意見は職員間で話し合っ対応している。エレベーターの横に意見箱を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全体会議やフロアミーティングを定期的に行い意見を聞けるようにしている。</p> <p>(外部評価) 全体会で職員の意見を聞き必要に応じて話し合っている。管理者は職員の意見を聞くことが大切だと考え一人ひとりの話をよく聞き、職員の思いを把握している。職員も定着しており、職員からリーダーに話す事により主任、管理者に伝わる仕組みもできている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) ①一年に1回は勤務評定も行き、努力実績の評価を行い適当と思われる者は給与の見直しも行っている。 ②年に2～3回の親睦会で管理職を含め職員間のコミュニケーションを図っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 現在は管理者やキャリアのある職員がミーティングの中での勉強会による指導を行っているが、今年度は外部研修や講師を招いての研修会を予定している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) ①認知症の実践者研修などを通じ、他施設の職員との交流も図れるようにした。 ②管理者他施設などを訪問し情報交換を行いサービスの向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握し改善出来るようなプランを作成し、経過観察をしながら見直しを行っていく。 ②担当者を決め、職員サイドから話かけを行い、不安や孤立感をなくする様にしている。 ③レクレーションや行事への参加も本人様の意思を尊重する</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ①入居に至る経過を十分にお聞きし必要性を理解する ②契約以前の段階で費用や生活の内容ケアの内容等の説明を行い、納得されるまで話し合いを行う ③医療との連携の状態を説明し家族様自身に主治医や方向性を決めていただく	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握出来るようにしている ②事前調査には管理者が介護支援専門員・看護師・介護リーダーを状態に合わせて参加させ、多様なサービスが説明できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ①職員全体であっても、担当者であっても花みずきの生活は介護の場でなく、生活の場であるという理念の指導を行っており、生活するために出来ない部分をお手伝いする、楽しむ時は一緒に楽しむ姿勢である様に心がけている。 ②利用者様と職員は人権も同じライン上に居り、一方通行の支援にならないように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ①利用者の生活や将来について必ず家族参加で話合えるようにしており、ホームのアドバイスや情報を提供し、家族様に最終判断をしていただくようにしている。 ②日常の状態の報告を看護師・担当者が中心に定期的に行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ①訪問面会は、本人・家族の拒否が無い限り自由に出るようになっている。(他の入居者に迷惑行為があると思われる方はご遠慮願っている) ②感染症の時期は面会の制限をさせて頂くこともある。 (外部評価) 個別に家族と一緒に出かけたり、行きつけの美容室などに行っている。ホームに入居してから行っている美容室が馴染みとなっている利用者もいる。ホームの行事やイベントには家族にも案内を行い参加を得て、一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ①自由な空間を理念としているので、無理強いしないで自然な形でお茶やレクレーションに参加して頂き、職員が介在することにより利用者同士の交流が出来るようにしている。 ※時間をかけてお友達同士で行き来できるようになっています。 ③合同で楽しめる行事設定を定期的に作成している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、地域の相談窓口として入居中と変わらずご相談に乗れるようにお話をしています	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ①個別サービスが実施できるように担当者を決めている ②24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし、ケアプラン作成や日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) 利用者の思いや家族の希望を日々の生活の中で聞き取るなど把握に努めている。また、職員の把握した情報は連絡ノートに記載し、全体会やフロア会等で話し合いを行い、職員全員で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ①家族や知人の訪問時にお聞きする事がある ②利用者様との係わりや会話の中で把握できるようにし、サービスの見直し等に取り入れ、今何がしたいかがあれば可能な限り実現できるようにする ③24時間シートを活用し把握するようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ①医療とも連携し、看護師・職員が毎日の健康チェックを行い、異常があるときは全員に申し送り緊急連絡がスムーズに行えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>①家族には日常的に意見を聞き・本人の満足度なども24時間シートや毎月のモニタリング表で評価しケアプランに反映している。 ②日常のミニカンファレンスや状態の報告等を聞き必要なときはプランの見直しを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の担当者を中心に職員全員が利用者一人ひとりの状況を把握できており、全職員の意見を採り入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い状態の変化に応じて対応している。モニタリング表は分かりやすい書式になっている。介護計画は定期的に見直し、利用者に合ったケアが行われている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>①24時間の個別記録・業務日誌による個別記録と毎日のケアプラン実施度を自己評価し実践に活かしている</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>①一日の流れの業務マニュアルはあるが、体調・天候・季節等を随時勘案し・優先すべき事柄を臨機応変に行い、行事の導入や、食事や外食の対応をしている ②入浴や日常の生活の中で個々に必要な福祉用具等も家族と話し合いながら安楽な生活が出来る様に心がけている</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>①習字・音楽・地域学童などボランティアの誘致をしている ②外出時の同行など家族にも協力を得て社会参加を促している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>①基本的には本人・家族の希望する医療機関を主治医 としている</p> <p>②受診時に家族対応が困難な場合は往診を中心とした 連携病院の紹介を行い、その中で決めてもらっている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者はそれぞれ希望するかかりつけ医を受診してい るが、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ 医としており、定期的に協力医療機関から往診をして もらっている。職員は利用者の健康状態の把握ができ ており、家族も医療面において安心が得られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>①看護師は非常勤2名を配置し、日常生活の健康管理 を行い家族と向き合い相談を受けながら、医療機関へ の連携を行っている</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>①日常より医療機関と連携をとり入院中の状況や退院 後の対処など情報交換が出来るようにし、早期退院が 出来るように努めている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>①入居時に終末期の方針をお聞きしているが、状態変 化がある度に医療・家族・花みずきで話し合いを持ち 方向性の確認を取っている</p> <p>②重度化した時、終末期を医療機関でなくホームでと 希望された場合は24時間体制の医療機関に協力を得 て看取りを行うようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの指針を定めており、入居時に利用者や家族に 説明を行い同意を得ている。看取りの経験もあり、利 用者の状態の変化に合わせてかかりつけ医、看護師、 家族、管理者、職員等関係者と話し合いを行い、方針 を決めている。また、看取りに関して外部の研修に参 加したり、ホーム内でも勉強会を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ①緊急連絡体制は整えてあり、看護師や医療機関へ連携できるようにしている ②応急処置などについては医療機関にも協力を得てマニュアル化しているが、医療従事者ではない者は許容の範囲で実施する事にしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ①地域には協力を要請している ②非難の場所は各階に掲示している ③防災訓練は定期的に行い、消防関係者の協力も得ている (外部評価) 月に1回日勤者のみで利用者も一緒に避難訓練をしており、避難経路も把握できている。消防署に直接連絡できるシステムになっており、指導も受けている。また、運営推進会議で地域の消防団にホーム内を見てもらい、協力が得られる体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの全大会において接遇についての勉強会を行ったり、月間目標として掲げ、目上の方へ声かけや姿勢について話合っている。 (外部評価) 職員の利用者に対する言葉使いや態度、職員同士の会話についてもミーティング時に話し合っている。利用者のトイレや歯磨き等の誘導は自然であり、職員と信頼関係ができていく様子が見えてきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ①食事や排泄、入浴、行事参加など利用者に関心しながら実施している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ①週に一度は日常のマニュアルを外し職員が自由に動ける日を設定している ②突発的な状況にも対応し、決まりごとに縛られない支援を心がけている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ①離床するときは更衣・身だしなみの気配りや整容を行ってもらう ②外出時は可能な人は、利用者様に服装など選んでもらいおしゃれを楽しんでもらうようにしている ③自分で選んだ更衣が出来ている人には「お似合いですよ」等の言葉かけを行い楽しむ意欲を持ってもらう	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ①花みずきは厨房で原型が出来ているため、盛り付けや配膳・片付け等手伝っていただく ②週に一度調理の日やおやつ作りの日は、献立の希望なども取り入れ、利用者参加で調理を楽しむ	
			(外部評価) 調理は併設の有料老人ホームの厨房で行なっている。週1回はホーム内で利用者と献立を考えて一緒に作ったり、おやつ作りを行うこともある。職員も利用者と会話を楽しみながら一緒に食事をしており、利用者同志もお喋りしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ①食事の形態は個々に合わせている ②食事・水分の摂取量は毎日チェックを行い本人に合わせた状態観察を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ①食後の口腔ケアは自立・介助ともに全員行う事が出来ている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ①個々に合わせて支援を行っている	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は睡眠剤を服用している利用者もあり、一人ひとりの状態に応じて睡眠を優先したり、訪室時やコールがある時等に対応する等、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ①排泄のチェックは毎日行い、早期に改善が出来るように食生活等で予防している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ①体調不良の時以外は随時入浴をしてもらっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は現状では困難であり出来ていない	
			(外部評価) 体調に配慮しながら、週2回は入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には目を変えたり、声かけを工夫しながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、ホーム内での入浴が困難な利用者に対しては、併設の有料老人ホームにある機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ①個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ①薬の管理は看護師が行い、全職員に指導しているが専門職でない職員が中途半端な判断をする事を禁じており、必ず主治医いや看護師への報告を行うようにしている。 ②担当者は自分の受け持つ利用者の既往症や薬の種類は把握するように指導している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ①個別サービスの実施を推進している ②24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし日々の楽しみに活かせるように取り組んでいる	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ①外出行事は月一度の予定で実施している ②平成22年は・・初詣・お花見・買い物と外食(ファミレス)・散髪と外食(回転寿司)・夏祭り・地方祭・さつき展・紅葉のドライブ・等が主な外出行事でした ③その他個別外出は個別サービスの一環として随時実施 (外部評価) 季節に合わせて外出の計画を立て、初詣や椿さんに出かけている。家族と一緒に外食等をする利用者もいる。天気の良い日は景色のいい屋上で外気に触れる機会を作っている。利用者の希望に応じて散歩や買い物も支援している。	管理者は外出の大切さを認識しており、全員で楽しめる外出や利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を計画しており、今後も利用者の希望や状態を考慮しながら取り組むことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ①買い物外出の日にそれぞれおこずかいを持って行き買い物や外食を個々に選んで楽しむ	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て可能な利用者は電話を取り次いだり、かけたり出来ている ②職員の支援も含め、年賀状を全員に書いてもらって出すことが出来た ③お便りのある人は写真や手紙を返信できる支援を実施	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①春夏秋冬の切り替えや行事などに合わせ壁飾りなどに工夫をし季節感を取り入れている ②共通空間は清潔感が保持できるようにしている ③照明についても、リビングの照明を増設し明るい中で食事やレクレーションを楽しんでもらう工夫をした</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は明るく、家庭的な雰囲気が漂っており、利用者も自由に過ごされている。壁には季節が感じられる手作りの物や利用者の習字等が飾られている。利用者が好きな場所で寛いだり、自由な時間を過ごすことができるよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①季節により屋上で過ごす事が出来る ②リビングでお茶やおやつ・カラオケなどを楽しむ事が出来る ③一人でリビングでテレビを見たり仲間が集まってお茶の時間を楽しんだり出来る。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>①家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している ②個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドが備え付けられており、利用者の使い慣れた馴染みの家具や洋服掛け、テレビ、写真、愛用していた物等を持ち込んでいる。壁の飾りは本人に合わせて工夫して飾られており、その人らしい落ち着ける雰囲気作りがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>①車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 ②居室内は畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている</p>	